

まちのアルバム

▼4月13日 中主幼稚園



入園おめでとう！

中主幼稚園で令和3年度第55回入園式が執り行われ、新しく89人の子どもたちが園の仲間となりました。

少し緊張した様子の子供たちでしたが、担任の先生から名前を呼ばれると大きな声で「はい！」と返事をし、先生と一緒にチューリップのうたを歌うと少しずつ緊張がほぐれ笑顔がもどりました。

また、市内各保育所（園）、幼稚園、こども園、小・中学校でも、入所（園）・入学式が執り行われ、子どもたちの新生活がスタート！

皆さんの健やかな成長をお祈りしています。

支え合い 地域の絆

第9回おうみ社会貢献賞を受賞されたボランティア団体「喜楽会」の皆さんが、その報告のため市役所を訪れました。

地域内の絆が薄れないようにという思いから奉仕を通じての地域づくりをめざし、平成2年に設立。

主な活動内容は、清掃作業やアーモンドの植樹、小学生の見守りなどです。

会長の田中修さんは「今後は貧困家庭の支援や地域カフェなどを通じて、さらに地域の絆を深めていきたい。」と話しておられました。

▼3月19日 市役所



歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

200

歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

安寧を祈る民俗行事—勧請吊—

勧請吊とは、正月の注連縄飾りとは区別されるもので、年頭に勧請縄（ツナ、ジャとも）と称する大縄を吊るし、村内安全や五穀豊穡を祈願する民俗行事です。古くは悪疫や災いは外界からやってくるものと考えられ、集落の入り口や神社の境内などに神聖な力を宿した大縄を吊るすことでそれらの侵入を防ぐとされました。今日の野洲では、矢放神社（吉川）、苗田神社（須原）、狩上神社（堤）、千原神社（井口）、三之宮神社（六条）、屯倉神社（市三宅）、三上神社と山の神（どちらも辻町）、行事神社（行畑）、新川神社（野洲）、富波乙の辻で伝わっています。

地域によってさまざまな形状の勧請縄が見られますが、大縄の中央にカナメや杉、竹などの植物で円形にかたどったものを下げたり、樺や榊、あるいは紙垂（特殊な切り方をして折った紙）をつけた小縄を12本（閏年には13本）飾

る形は共通して見られます。市外で見られる勧請縄には「村内安全」などの祈禱文や、十三仏の尊名、梵字などを記した板を中央に吊るす地域もあります。これを勧請板といい、滋賀県彦根市松原内湖遺跡では、元徳3（1331）年の年号や般若心経十二巻などを転読し、健やかな日々を願った文言がみえる勧請板が出土しています。

野洲では神社境内における勧請吊が多く、神社の行事と考えられがちですが、勧請板の墨書などからは仏教的な祈禱の姿をみることができます。現代まで脈々と語り継がれる勧請吊は、安寧を願う人々の祈りが投影された重要な文化といえるでしょう。

（市史専門調査員 江藤弥生）



◀富波乙
中ノ池川橋近くの辻
(2021年撮影)

■テーマ展「魔除け・厄除けの文化 —滋賀県野洲の暮らしと風習—」
開催中～5月30日(日) 休館日:月曜日(祝日は開館)、5月6日(木)
※市民は入館無料(運転免許証やげんきカードなどをご提示ください。)
※市ホームページ等で事前に開館状況をご確認の上、ご来館ください。